

序

京丹後市網野町網野に所在する網野銚子山古墳は、日本海沿岸部最大の前方後円墳です。この古墳は、古く大正 11 年に国史跡の指定を受け、保護が図られてきました。一方、この古墳のさらなる保存活用を図るべく、平成 7 年策定の「網野創生の丘」構想を皮切りとして網野町教育委員会において「銚子山古墳周辺整備基本構想」が策定され、整備の構想が練られていました。

これを受け、本市発足後において、整備事業の立案、範囲確認調査の実施及びその成果による史跡追加指定、基本計画の策定、指定地の公有化、実施設計策定のためのさらなる発掘調査の実施と取組を進めてきました。

本書で報告する発掘調査は、これらの取組を受けて、整備事業を行っても史跡の保存が図れるか、史跡現状変更の判断を適切に行うべく遺構の残存状況を確認するために行った発掘調査です。

今回報告の調査は、現地調査に 4 ヶ年、遺物などの整理作業に 3 ヶ年を費やし大きな成果を上げることができました。端的に墳丘長が 201 m と推定されることがメディアでは大きく取り上げられましたが、網野銚子山古墳の各部位について緻密な設計がなされ、その積み上げの上に古墳が築かれたものであることが調査によりわかってきました。

今回、関係機関のご協力のもとに調査成果をまとめることができました。この成果をもとに整備が行われ、網野銚子山古墳の更なる保存活用が図られることを願ってやみません。

最後に、発掘調査にあたり多大なるご指導をいただきました京丹後市史跡整備検討委員会及び関係機関の方々、調査にご協力をいただいた方々、報告書の作成にあたり玉稿をいただきました史跡整備検討委員会の三浦到会長、岸本直文先生、犬木努先生、橋本清一先生、天理大学遺跡調査チームの皆さまには厚くお礼申し上げます。

そしてなによりも酷暑・極寒の折も調査に従事していただいた方々、コンテナ 400 箱に及ぶ非常に多量の遺物を一つ一つ洗浄、接合し、実測図作成まで取り組んだ整理作業に従事した方々に対し、深く感謝申し上げます。

令和 6 年 3 月

京丹後市教育委員会

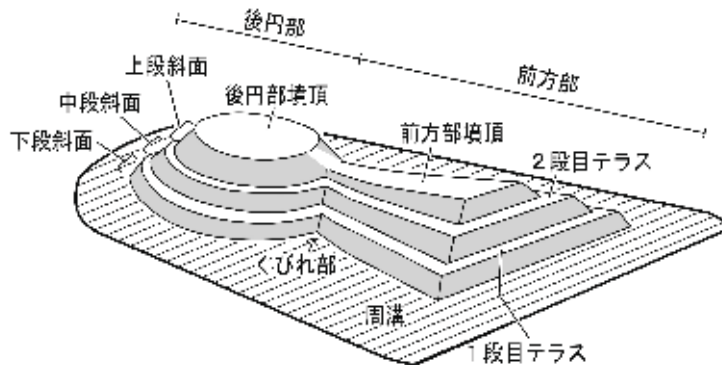
教育長 松本 明彦

例 言

1. 本書は、京丹後市教育委員会が平成29～令和2年度に実施した網野銚子山古墳整備事業に伴う発掘調査報告書である。遺跡名、所在地、調査目的、担当者及び調査期間は下記の通り。

遺跡名		所在地	調査目的	担当者	調査期間
網野銚子山古墳	第9次	京丹後市網野町網野小字妹、宮家	墳丘前方部裾の状況確認	岡林峰夫	平成30年5月29日～平成30年8月30日
	第10次		墳丘後円部の状況確認 墳丘くびれ部の状況確認	岡林峰夫 藤田智子 奥 勇介	平成30年5月21日～平成30年12月26日
	第11次		墳丘くびれ部の状況確認	岡林峰夫 藤田智子 奥 勇介	令和元年5月7日～令和2年2月14日 令和2年5月1日～令和3年2月19日

2. 発掘調査は、京丹後市教育委員会文化財保護課(令和5年4月より文化財保存活用課)が主体となり実施した。費用は、文化庁より国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(市内遺跡発掘調査等事業)、京都府より埋蔵文化財緊急発掘調査費補助金の交付を受けた。
3. 発掘調査の記録写真撮影は、デジタルカメラ(Canon EOS7D、Canom DS12625)、フィルムカメラ(Canon EOS-55)で撮影した。本書はデジタルカメラ撮影の写真を主に使用している。
4. 発掘調査で検出した土層の色調は『新版標準土色帳』(2005年版)を参考とした。
5. 本書に用いた座標は世界測地系国土座標第Ⅵ系に基づくものであり、方位は座標北をさす。ただし、国土地理院発行地図の方位は経度の北をさす。レベルはTP値(東京湾平均海水面)による。
6. 本書の編集・執筆は、京丹後市教育委員会文化財保存活用課職員の協力のもと、岡林峰夫・藤田智子・奥勇介が行なった。また、三浦到氏(京丹後市史跡整備検討委員会会長・元京丹後市立資料館長)、岸本直文氏(大阪公立大学)、犬木努氏・近藤麻美氏(大阪大谷大学)、橋本清一氏(京都府立大学講師・元京都府立山城郷土資料館)、桐井理揮氏(京都府教育庁)、天理大学遺跡調査チームの各氏・団体から玉稿を賜った。執筆分担は第1章、第2章1、第3章1～2、第6章2を岡林が、第3章3、第4章の一部(埴輪・まとめ)を藤田が、第2章2、第6章1を奥が、第4章の一部(土器)を桐井氏が執筆した。また、第5章及び第7章の執筆者は端緒に記した。
7. 本書に使用している古墳の各部位の名称は、下図の通りである。



8. 本書に収録している図面・写真は、京丹後市教育委員会文化財保存活用課にて保管している。
9. 本発掘調査の実施に関しては、以下の方々から指導助言、協力を得た。記して厚く感謝申し上げる次第である。

文化庁文化財第二課、京都府教育庁指導部文化財保護課、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、京都府立大学文学部考古学研究室、京丹後市建設部管理課、網野連合区、水之江区、丹後地区森林組合、京丹後市総合サービス株式会社、全京都建設協同組合、株式会社相互技研、株式会社アコード、株式会社文化財サービス、株式会社イビソク、株式会社アクセス、アジア航測株式会社、写真楠華堂、坪国造園有限会社、株式会社レンタルリース丹後、エスケイ建機サービス株式会社、大西衛生株式会社、株式会社環境開発、コンピュータ・サービス株式会社、株式会社丹後企画、東高志、阿部大誠、荒木瀬奈、伊賀高弘、諫早直人、石崎善久、一瀬和夫、上野あさひ、大澤嶺、大野壽子、大本朋弥、岡田健吾、緒方侑美、小田木治太郎、面将道、加藤晴彦、加藤雄太、河森一浩、岸田徹、北山大照、桐井理揮、桑原久男、小泉裕司、小滝篤夫、吹田直子、高野陽子、高橋克壽、竹村亮仁、筒井崇史、辻川哲郎、辻川智代、中川和哉、中居和志、中島和彦、中島信親、長谷川達、橋本英将、菱田哲郎、細川修平、松尾史子、水ノ江和同、安松貞夫、山崎公輔、吉田芽依、若狭徹

目 次

巻頭カラー

序文

例言

目次

挿図・図表・巻頭図版目次

第1章 調査の経過 < 1 >

1 調査の目的

2 調査体制

3 位置と環境

第2章 調査前の墳丘等について < 7 >

1 墳丘測量図の変遷

2 赤色立体地図

第3章 発掘調査概要 < 17 >

1 調査区の設定

2 平成29年度の調査

3 平成30年度～令和2年度の調査

第4章 出土遺物 < 53 >

第5章 分析 < 73 >

1 網野銚子山古墳における物理探査

2 網野銚子山古墳の葺石と礫敷石の石材

3 網野銚子山古墳出土埴輪および関連資料の蛍光X線分析

第6章 総括 < 117 >

1 墳丘の復元

2 調査結果まとめ

第7章 考察 < 135 >

1 網野銚子山古墳の設計と佐紀陵山古墳との比較

2 網野銚子山古墳築造の謎とその存在意義

図版

抄録・奥付

挿 図 目 次

第 1-1 図	位置図・周辺遺跡分布図		
第 2-1 図	『古堂取調書』記載の「亭子山」図		
第 2-2 図	『京都府史跡勝地調査会報告』掲載図		
第 2-3 図	『古墳・埋蔵文化財』掲載図		
第 2-4 図	『同志社考古』第 10 号掲載図		
第 2-5 図	網野町報告書掲載図		
第 2-6 図	網野銚子山古墳地形測量図		
第 2-7 図	写真地図及び赤色立体地図（平面観）		
第 2-8 図	赤色立体地図（鳥瞰図）		
第 2-9 図	赤色立体地図（立面観）		
第 3-1 図	トレンチ位置図		
第 3-2 図	H29 トレンチ位置図		
第 3-3 図	H29-1tr 平断面図		
第 3-4 図	H28-4tr 拡張平断面図		
第 3-5 図	H29-2tr 平断面図		
第 3-6 図	H29tr 平断面図		
第 3-7 図	H30-1tr 墳頂部平面図・南東壁面断面図・A2 断割断面図		
第 3-8 図	H30-1tr 上段斜面平面図		
第 3-9 図	H30-1tr 上段斜面壁面断面図		
第 3-10 図	H30-1tr 2 段目テラス平面図・南東壁面断面図・断割断面図		
第 3-11 図	H30-1tr 中段斜面平面図・南東壁面断面図		
第 3-12 図	H30-1tr・H28-1tr 1 段目テラス平面図・南東壁面断面図		
第 3-13 図	H30-1tr・H28-1tr 下段斜面平面図・南東及び北西壁面断面図		
第 3-14 図	H30-2tr 壁面断面図（南）		
第 3-15 図	H30-2tr 壁面断面図（北）		
第 3-16 図	H30-2tr 上段斜面立面図		
第 3-17 図	H30-2tr 上段斜面及び 2 段目テラス平面図		
第 3-18 図	H30-2tr 2 段目テラス埴輪列断面図		
第 3-19 図	H30-2tr 中段斜面平面図		
第 3-20 図	H30-2tr 中段斜面立面図		
第 3-21 図	H30-2tr 下段斜面平面図		
第 3-22 図	H30-2tr 下段斜面立面図		
第 4-1 図	丹後型円筒埴輪の各部名称		
第 4-2 図	丹後型円筒埴輪実測図（H30-1tr 1～5：墳頂部出土 6：2 段目テラス出土）		
第 4-3 図	丹後型円筒埴輪実測図（H30-1tr 7～11：1 段目テラス出土）		
第 4-4 図	丹後型円筒埴輪実測図（H28-1tr～H30-1tr 14～17：1 段目テラス出土）		
第 4-5 図	丹後型円筒埴輪実測図（H30-2tr 18～20：上段斜面出土 21～23：2 段目テラス出土）		
第 4-6 図	丹後型円筒埴輪実測図（H30-2tr 24～27：2 段目テラス出土）		
第 4-7 図	丹後型円筒埴輪実測図（H30-2tr 28～33：2 段目テラス出土）		
第 4-8 図	丹後型円筒埴輪実測図（H30-2tr 34：中段斜面出土 35～38：1 段目テラス出土）、丹後型円筒埴輪口縁部（H30-2tr 39：1 段目テラス出土 40：下段斜面出土）		
第 4-9 図	丹後型円筒埴輪実測図（H30-2tr 41：1 段目テラス出土 42～48：下段斜面出土）		
第 4-10 図	丹後型円筒埴輪実測図・拓本・写真（H30-2tr 48.50.51～54：上段斜面出土 49.55～58：2 段目テラス出土 59：中段斜面出土）		
第 4-11 図	線刻埴輪拓本（H30-2tr 79：上段斜面出土 80.81.88.89：中段斜面出土 86.87：2 段目テラス出土）（H28-3tr 85）（H29-3tr 89）（H29-2tr 83.84）		
第 4-12 図	形象埴輪実測図（60～66：蓋形埴輪 67：甲冑形埴輪 68.69：家形埴輪）		
第 4-13 図	形象埴輪実測図（70.71：盾形埴輪 72.73：盾形埴輪か）		
第 4-14 図	形象埴輪実測図（70～77：不明埴輪（鱗か））		
第 4-15 図	H30-1tr 墳頂部出土土器		
第 5-1 図	探査基準点配置と墳丘主軸電気比抵抗探査測線（LINE006-012）の位置		
第 5-2 図	後円部の地中レーダ探査側線と電気比抵抗探査側線（LINE000～005）の位置		
第 5-3 図	前方部の地中レーダ探査側線と電気比抵抗探査側線（LINE014～015）の位置		
第 5-4 図	後円部 time-slice 図		
第 5-5 図	異常応答（A）の縦横断面 profile		
第 5-6 図	異常応答（B）の南西－北東断面 profile		
第 5-7 図	異常応答（C）の北西－南東断面 profile		
第 5-8 図	前方部 time-slice 図		
第 5-9 図	前方部の南西－北東断面 profile		
第 5-10 図	後円部 LINE000 の電気比抵抗断面図		
第 5-11 図	後円部 LINE001 の電気比抵抗断面図		
第 5-12 図	後円部 LINE002 の電気比抵抗断面図		
第 5-13 図	後円部 LINE003 の電気比抵抗断面図		
第 5-14 図	後円部 LINE004 の電気比抵抗断面図		
第 5-15 図	後円部 LINE005 の電気比抵抗断面図		
第 5-16 図	墳丘主軸上の LINE006-012 の電気比抵抗断面図		
第 5-17 図	前方部 LINE014 の電気比抵抗断面図		
第 5-18 図	前方部 LINE015 の電気比抵抗断面図		
第 5-19 図	墳丘測量図と後円部地中レーダ探査結		

第 5-20 図	果（深度 31 ～ 38ns） 網野銚子山古墳と周辺の河川名と河床 礫調査地点
第 5-21 図	礫の大きさの測定法（KRUMBEIN1941）
第 5-22 図	礫の円磨度の段階表（KRUMBEIN1941）
第 5-23 図	網野銚子山古墳の安山岩の葦石、礫敷 石等の崩落石の 3 軸単純平均径と重量 の関係図
第 5-24 図	礫の形（ZINGG1935）
第 5-25 図	礫の球形度曲線（KRUMBEIN1941）
第 5-26 図	葦石、礫敷石と現河床礫、海浜礫の球 形度
第 5-27 図	古墳時代前期頃の古地形と網野銚子山 古墳の葦石、礫敷石の採取と運搬ルー トの推定図
第 5-28 図	葦石の方向と傾き（橋本 1993）
第 5-29 図	網野銚子山古墳出土埴輪の両分布図
第 5-30 図	網野銚子山古墳出土埴輪の両相関図
第 5-31 図	福田川流域出土埴輪の両分布図
第 5-32 図	福田川流域出土埴輪の両相関図
第 5-33 図	竹野川下流域出土埴輪の両分布図
第 5-34 図	竹野川下流域出土埴輪の両相関図
第 5-35 図	白米山 / 蛭子山 1 号墳 / 作山 1・2 号 墳 [両分布図]
第 5-36 図	白米山 / 蛭子山 1 号墳 / 作山 1・2 号 墳 [両相関図]
第 5-37 図	谷垣遺跡出土埴輪 [両分布図]
第 5-38 図	谷垣遺跡出土埴輪 [両相関図]
第 5-39 図	嶋谷東 1 号墳 / 後野丸山 1 号墳 [両分 布図]
第 5-40 図	嶋谷東 1 号墳 / 後野丸山 1 号墳 [両相 関図]
第 5-41 図	かのこ山 / 尾上城跡 [両分布図]
第 5-42 図	かのこ山 / 尾上城跡 [両相関図]
第 5-43 図	板浪下 / 休場西 [両分布図]
第 5-44 図	板浪下 / 休場西 [両相関図]
第 5-45 図	野田川流域出土埴輪の両分布図
第 5-46 図	野田川流域出土埴輪の両相関図
第 5-47 図	丹後地域出土埴輪の両分布図
第 5-48 図	丹後地域出土埴輪の両相関図
第 5-49 図	網野銚子山 / 神明山 / 黒部銚子山 [両 分布図]
第 5-50 図	網野銚子山 / 神明山 / 黒部銚子山 [両 相関図]
第 5-51 図	網野銚子山 / 神明山 / 蛭子山 1 号墳 [両 分布図]
第 5-52 図	網野銚子山 / 神明山 / 蛭子山 1 号墳 [両 相関図]
第 6-1 図	網野銚子山古墳の遺構検出状況 (1/1,500)
第 6-2 図	後円部 H28-1tr・H30-1tr 断面復元図

第 6-3 図	後円部 S60-3・GAtr、H20-4tr 断面復元 図
第 6-4 図	くびれ部 H30-2tr 平面・傾斜角復元図
第 6-5 図	くびれ部 H29-4・H28-2tr 断面復元図
第 6-6 図	前方部 H29-2tr、H9-3tr 合成断面復元
第 6-7 図	周溝復元図 (1/200)
第 6-8 図	網野銚子山古墳の墳丘復元図 (1/1,000)
第 7-1 図	網野銚子山古墳の後円部南から見た横 断側面 1/1000
第 7-2 図	網野銚子山古墳の復元と側面観 1/1000
第 7-3 図	網野銚子山古墳の設計寸法 1/2500
第 7-4 図	佐紀陵山古墳の復元 1/2000
第 7-5 図	網野銚子山古墳の設計寸法 1/2500
第 7-6 図	平面の比較 1/3000
第 7-7 図	網野銚子山古墳(左)と佐紀陵山古墳(右) の側面比較 1/1400
第 7-8 図	後円部の段築構成の比較 1/1000
第 7-9 図	前方部の段築構成の比較 1/1000
第 7-10 図	タニワとヤマトを結ぶ道

図 表 目 次

表 5-1	基準点一覧
表 5-2	電気比抵抗探査測線の始点・終点の座標
表 5-3	肉眼観察による岩石の風化度の区分（橋本 1993）
表 5-4	網野銚子山古墳の葦石テラス礫敷石と、周 辺の河川の河床礫と海浜礫の岩石種名の割 合
表 5-5	網野銚子山古墳南東部くびれ部の H30 トレ ンチ葦石、テラス礫敷石の 3 軸単純平均径
表 5-6	本古墳の葦石、礫敷石と現河床礫、海浜礫 の円磨度
表 5-7	岩石種名毎の風化度の割合
表 5-8	網野銚子山古墳出土埴輪の蛍光 X 線分析値
表 5-9	京丹後市内出土埴輪の蛍光 X 線分析値 (1)
表 5-10	京丹後市内出土埴輪の蛍光 X 線分析値 (2)
表 5-11	与謝野町内出土埴輪の蛍光 X 線分析値
表 6-1	網野銚子山古墳の周溝復元数値
表 6-2	網野銚子山古墳各段の規模
表 7-1	網野銚子山古墳の設計寸法
表 7-2	佐紀陵山古墳の設計寸法
表 7-3	時期・府県ごとの 180 m 以上の前方後円墳 の数
表 7-4	奈良県・大阪府以外の全長 180 m 以上の前 方後円墳
表 7-5	丹後の弥生時代の特徴的な遺跡

巻頭図版目次

巻頭図版	1	網野銚子山古墳と日本海
巻頭図版	2	(1) 空からみた網野銚子山古墳(2014年撮影)
巻頭図版	2	(2) 明治31(1898)空から見た網野銚子山古墳(稲葉家写真資料)
巻頭図版	3	網野銚子山古墳の赤色立体地図(平面観)
巻頭図版	4	網野銚子山古墳の赤色立体地図(鳥瞰図)
巻頭図版	5	H30-1tr(後円部調査)平面オルソ画像(1/100)(京都府立大学文学部考古学研究室作成)
巻頭図版	6	H30-2tr(東くびれ部調査)平面オルソ画像(1/100)
巻頭図版	7	H30-1tr、H30-2tr 立面オルソ画像(1/100)
巻頭図版	8	出土した丹後型円筒埴輪(H30-1tr 1段目テラス)